

取組みの方針

自らの命は自らで守る「自助」と 地域防災として「共助」の大切さ

阪神淡路大震災以降、自然災害に対して危機管理が呼ばれるようになり事前の対応の必要性が明らかとなった。一方、東日本大震災を経て災害発生時における「行政機関による初動対応の限界」が顕著となり、自らの命は自らで守る「自助」と地域防災として「共助」の大切さが指摘されている。西岡地区町内会連合会として、「共助」による地域防災力のアップのために地区防災計画に取り組む。

1) 地区の概要

西岡地区は札幌市の南東に位置し、東に月寒川、西に望月寒川に挟まれた南北に細長い地区である。戸建ての住宅地が広がり、地区の中心には札幌大学のキャンパス、地区の南側には自然豊かな西岡公園（西岡水源地）がある。

令和6年6月31日現在の西岡地区連合町内会の加入世帯数は10,027世帯となっている。

2) 災害リスクと課題

傾斜地でのがけ崩れ、月寒川と望月寒川の氾濫、地震、山林火災などが災害リスクとして考えられる。中でも月寒断層を震源とした直下型地震した場合、住宅の損壊のほか、相当数の避難者が想定される。

単位町内会の中には自主防災規定を策定していない町内会や、策定してから長い年月更新していない町内会があり、防災に関する取り組み状況に差がある。

3) 取組の概要

町内会連合会は、単位町内会と行政をつなぐ連携役となり、具体的な行動計画は各単位町内会の規定に従ってもらう方針とした。そのため、各単位町内会での地区防災計画の新規作成や見直しを検討してもらうための取組を行っている。

モデル地区に指定された当初は、単位町内会に対し自主防災会組織に関するアンケートを実施し、課題を整理した。専門家による講演会では、地区防災計画の目的や考え方を学ぶ機会とした。ワークショップ形式の研修では、地域課題の検討、単位町内会での地区防災計画を作成する場合の進め方を確認した。

計画には、連合町内会と単位町内会の役割分担や単位町内会防災本部の組織図モデルケースを示すことで、単位町内会での地区防災計画の新規作成や見直しの際に参考になることを目指した。

4) 地区防災計画の取組状況

年 月	項 目	内 容
R 2	地区防災計画に係るモデル地区決定通知	
R 2.10	防災防犯部会	単位町内会自主防災に関するアンケート調査結果、防災訓練詳細
R 3.7	防災防犯部会	令和3年度の計画確認
R 3.10	防災防犯部会	地区防災計画について危機管理対策室からの基調講演
R 3.11	防災防犯部会	地区防災計画について意見交換
R 3.12	防災防犯部会	地区防災計画について意見交換
R 4.1	防災防犯部会	令和3年度の事業報告と令和4年度の計画について
R 4.5	防災防犯部会	令和4年度の計画について
R 4.7	防災防犯部会	地区防災計画について意見交換
R 4.10	防災防犯部会	地区防災計画について意見交換
R 4.11	防災講演会	テーマ：災害・危機に備えて 講師：札幌市危機管理局危機管理部 山崎 克己氏、齋藤 弘幸氏
R 5.8	防災防犯部会	地区防災計画について意見交換
R 5.11	防災講演会	テーマ：町内会の地区防災計画について 講師：特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構 上席研究員 伊藤 晋氏
R 6.2	防災WS	町内会での地区防災計画策定に向けた検討課題
R 6.2	地区防災計画WG	地区防災計画概要版について
R 6.12	防災講演会	テーマ：町内会で助け合うために 講師：特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構 上席研究員 伊藤 晋氏
R 7.2	研修会	地区防災計画策定に関する研修（同内容で2回実施）

5) 取組みの様子



防災WS (R 6.2)



防災講演会 (R 6.12)

6) 地区防災計画の概要

西岡地区連合町内会の計画の項目と、計画内容を以下に示す。

計画の構成

- ・はじめに
- ・地域の特性
- ・想定される自然災害
- ・町連と単町の関わり
- ・町連の組織体制
- ・単町防災本部の組織図モデルケースと動きの例【参考】
- ・行動計画

※A3用紙の2つ折り

西岡町内会連合会地区防災計画

地区防災計画

令和6年10月

1.はじめに

阪神淡路大震災以降、自然災害に対して危機管理が叫ばれるようになり事前の必要性が明らかとなった。一方、東日本大震災を経て災害発生時における「行政機関による初動対応の順序」が顧客となり、自らの命は自らで守る「自助」と地域防災として「共助」の大切さが指摘されているところである。

西岡地区内会連合会（以下「町連」と記述）としても「共助」による地域防災力のアップのために地区防災計画に取り組むものである。

2.地域の特性

【自然特性】

- 南北に長い地区である
- 木造池がある
- 丘陵地であり傾斜地が多い
→転落の可能性あり
- 月寒川と望月寒川にはさまれている
→河川の氾濫の可能性あり
- 月寒断層がある
→直下型地震の可能性あり
- 地区的後背地に豊かな山林が形成されている
→山林火災の可能性あり
- 沿岸からは遠く、津波被害の心配はなし

【社会特性】

- 木造住宅、戸建て住宅が多い
- 高齢化が進み、要介護者の数や高齢者向け施設の数が増加している
- 大学があり学生が多い
- 交通の要衝（羊ヶ丘通、五輪通、木源池通、福住桑園通など）

N



①はじめに、地域の特性

3.想定される自然災害

【地震】

- 2018年9月6日に発生したブラックアウトは2日間におよび、道端では信号が消え、マンションの断水など様々な影響を及ぼした。
- 月寒断層による直下型地震が発生する可能性があり、住宅の損壊のほか、余震の不安により相当数の避難者が想定される。

【風水害】

- 西岡地区は木造が多く、2019年の台風による強風で木造が倒れ、さらに停電と共闘テレビの停波を招いた。
- 月寒川と望月寒川にはさまれており、河川氾濫の可能性がある。しかし被害世帯数は少ないものとみられ、被害にあった家庭の近くの避難所のみで対応可能と想定される。

4.町連と単町の関わり

【町連の役割】

- 情報/連絡体制の確保
- 単町・自治会間の連絡および情報共有
- 単町間の役割統制、リソースの調整
- 町内会をまとめる事業の調整や手配
- 行政との窓口、対外交渉の窓口

【単町の役割】

- 避難救援の実行
- 自主防災規定期を有する単町は、自主防災規定期の運用を優先

町連

```
graph TD; A[町連] --> B[単町①]; A --> C[単町②]; A --> D[単町③...]
```

・町連の防災計画と単町の防災計画はそれぞれの役割を反映して作成する。
・単町で防災計画を作成する場合には町連に連携する項目（連絡体制等）を盛り込むことを要望する。

5.町連の組織体制

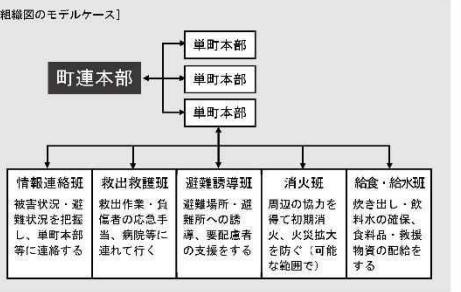
災害発生時の町連の対策本部は防災防犯部を中心として連絡ネットワークによって確立する。



6.単町防災本部の組織図モデルケースと動きの例【参考】

参考として、災害発生時に単町で防災本部を設置する際の組織図のモデルケースと、単町本部の動きの例を示す。

【組織図のモデルケース】



【単町本部の動きの例】



・すでに規定のある単町は、その規定での運用を優先する。
・あくまで参考であり、単町の実状に合わせる。

②想定される自然災害、町連と単町の関わり、組織体制、組織図モデルケースと動きの例



③行動計画

計画の説明

①はじめに、地域の特性

自助に加え、共助の大切さを説明した。また、西岡町内会連合会の区域と、地区の自然特性と社会特性を整理した。

②想定される自然災害、町連と単町の関わりなど

地震と風水害について、過去の具体的な事例を交えて説明した。町内会連合会と単位町内会の関わりとしてそれぞれの役割を整理し、単位町内会の防災計画を作成する場合には、それらを反映させることを要望として示した。また、災害発生時の町連の組織体制に関して、大まかな流れを掲載した。単町防災本部の組織図モデルケースと動きの例を示し、単位町内会での地区防災計画の新規作成や見直しの際に参考となるようにした。

③行動計画

各段階に応じ、町連として取り組む行動計画を掲載した。